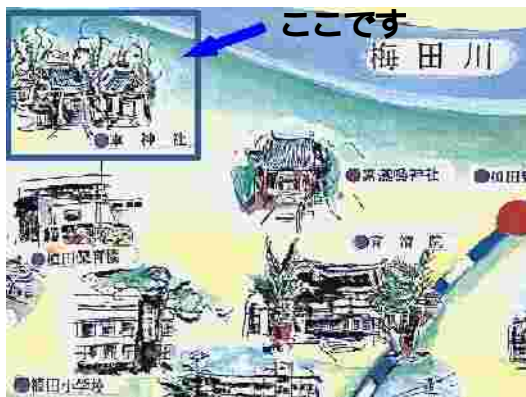


車神社古墳

車神社古墳は、梅田川左岸沿いの河岸段丘端に立地する全長42mの前方後円墳です。明治18年（1885）9月、神社本殿改装にあたり後円部を削平した際に銅製の鈴杏葉3個、ガラス製勾玉1個、碧玉製管玉33個、鉄製大刀1口、須恵器提瓶1口が出土しました。遺物の出土した墳丘の内部主体は横穴式石室と推定されていますが、削平された上に本殿が建っているため、詳細は不明です。

出土品のうち、馬具の飾り品である鈴杏葉は2個が完形品で、1個は破砕されているが鈴部分が残存していて、3個ともすべて先端と両脇に鈴の付く三鈴杏葉であったことがわかります。この鈴杏葉は、出土例の少ないもので県内では出土古墳の明らかな唯一の例です。比較的古い段階の馬具で、古墳時代後期でも5世紀後半から6世紀前半までに編年されます。また、ガラス製の勾玉も赤色を呈する珍しいものです。

墳丘は前方部がよく残り、前方部幅14m、長24m、高さ2.8mで、後円部径18mの規模です。



* 引用文献 豊橋百科事典

文化財ナビ愛知 HP

(<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/bunkazainavi/yukei/kouko/kensitei/0711.html>)

(植田小学校 中野 敦生)